ウォールアート フェスティバル

2020

ふくしま in 猪苗代

ウォールアートフェスティバル
ふくしま in 猪苗代 2020

参加作家　浅野友理子　市橋晴菜　香川大介（五十音順）
公開日（オンライン）2020 年 10 月 31 日・11 月 1 日
滞在制作期間　2020 年 9 月 26 日～ 10 月 30 日
会場　猪苗代町立翁島小学校
　　猪苗代町立東中学校
　　福島県立猪苗代高校

ウォールアートフェスティバル
ふくしま in 猪苗代 2020 スピンオフ展示
「アート×対話」
参加作家
浅井裕介　浅野友理子
市橋晴菜　香川大介　ツツミエミコ
野口勝宏（五十音順）
期間　2020 年 10 月 28 日～ 11 月 3 日
会場　はじまりの美術館

2020 年
テーマは対話

人と人

だまっていたら
わからない。
目を閉じて
隣の人の声に
耳を傾けて。

アートと人

アートは
人に何を
語りかける？

自然と人

あなたは自然と
どんなふうに
向き合う？

自分と自分

自分の言葉で
自分の心の扉を
叩く。

はじめに

世界が一変した 2020 年、ウォールアートフェスティバルふくしま in 猪苗代の開催に一筋の光を見出だそうとした私たち。それは、先の見えない暗闇の中にいるからこそ描かれる世界がきっとあり、それならば猪苗代町で筆をふるってほしい、渾身の作品を子どもたちに見せてあげたいという願いと、今こそアートの力でみんなを励まし、心に、魂に響くメッセージを届ける時であるという使命感に「希望」を見たからです。気づけば、この思いにたくさんの賛同と理解が集まり、開催に立ちはだかる様々な壁は、いつしかアーティストを迎える真っ白いキャンバスへと変わっていきました。

高まる期待を一身に受けて壁と対峙する３名のアーティスト。その全身全霊を傾ける後ろ姿、表現される世界観、作品に込められた思いはどれほどの勇気と感動を与えてくれたことでしょう。どの作品も「ウォールアートフェスティバル（機会）・ふくしま in 猪苗代（この場所）・２０２０（この時）」だからこそ生まれた傑作となり、学校の、地域の宝として輝きを放っています。

どうか、一日も早く作品の前に立てる日が来ることを願いながら、希望をもたらした作品とそこに込められた珠玉のメッセージを感じてください。

2021 年 1 月 29 日　実行委員長　楠　恭信

3 人のアーティストと実行委員の熱量

2020 年、感染症拡大により沢山のイベントや企画が中止になるなか、3 年目となるこのプロジェクトは何とか間を空けずに実施したい、そういう想いで進めてきました。その想いに賛同いただき、刻一刻と変わる状況のなかアーティストの滞在を受け入れてくれた各学校には改めて感謝いたします。

そして、今年の招聘作家である 3 名のアーティストはこの状況下でこそ生まれた、作品だけではない様々なものを残してくださいました。香川大介さんは、使われていなかった猪苗代高校の美術室にまさに新しい命を吹き込まれました。浅野友理子さんは、翁島小学校の独自の取り組みである猪苗代湖の環境保全に参加し、子どもたちとの共通の体験を描いた作品には手触りを感じるような温かさがあります。そして、市橋晴菜さんは東中学校の生徒たちが行き来する場所で生き生きと制作し、町内のたくさんの方々が筆を入れた作品も含め、想いと記憶が塗り込まれた大作を生み出してくれました。

外部から人を呼び込めないからこそ、実行委員を含む町内の人たちの熱が凝縮した開催となりました。この記録集を通して少しでもその熱を感じていただければ幸いです。

2021 年 1 月 31 日　副実行委員長　小林竜也

「ウォールアートフェスティバルふくしま in 猪苗代」に期待するもの

ウォールアートフェスティバルふくしま in 猪苗代 2020 が、３名の素晴らしいアーティストにより、本町で新たな作品が完成し開催できましたこと、大変喜ばしく誠におめでとうございました。

今年は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、全国各地の様々なイベントが中止となり、本町も大きなイベントが中止を余儀なくされる中、ウォールアートフェスティバルが、開催できるかどうか本当に心配しておりました。

長期化するコロナ禍の中、楠実行委員長はじめ実行委員の皆様の、この事業にかける熱い思いと、アーティストの心が一つとなり、今年は、一般公開は行わず、オンライン配信により開催できましたこと本当に嬉しく思います。

これまでに、町内の小・中学校と高校を会場に、アーティストと児童生徒や地域の方々が協働で表現した作品は、児童生徒の感性を育むとともに、多くの方々との交流を通して、新しい学びの機会となるなど、アートの力で地域の交流に大きく貢献されておりますことに、深く敬意を表しますとともに心から感謝申し上げます。

これからも、この事業を通して町内の学校が、地域の交流の場となることを、ご期待申し上げますとともに、実行委員会の益々の発展と、皆様のご健勝とご活躍をご祈念申し上げあいさつといたします。

2020 年 12 月 15 日 猪苗代町教育委員会教育長　宇南山忠明

答え

猪苗代町立翁島小学校長　永島慶和

３年連続の制作会場となった本校は、ウォールアートの「宝庫」です。
インドとここだけ、世界に２つ存在する、小栗千隼氏による「ワイルドローズ」
岩切章悟氏による、世界一ファンキーな図工室「きみの見る世界のはじまり」
泥の跡と淺井裕介氏のコラボ、摩訶不思議な世界「風といのちと大地のカケラ」

今なお、どの作品もじんわりと熱を帯びて、貴重な教育資源として機能しています。

３年目は、「この部屋が、水槽に見えてきました。」とチャーミングな発想をつぶやいた、浅野友理子氏を迎えました。最大の恩恵は、浅野さんが描く絵によって、本校独自の「水環境学習」への賛辞が贈られたことです。伝統的に行ってきた環境保全活動が、作家のフィルターをとおして、具体的な形として現れてきました。

あの「水槽」の中に入り、鑑賞者である子どもたちが壁画と向き合うことで、絵全体が完成すると、浅野さんは語ります。活動の主役である子どもたちが絵と「対話」することによって、この絵も成長していくことでしょう。

子どもたちに誇りと自信を与えてくれた作品は、子どもたちに溶け込みながら、あるべき場所に存在し続けます。

なぜ、WAF を学校で開催するのか？
その答えは、明白なのです。

＊ WAF ＝ Wall Art Festival の略

「生命の木」から未来へ

猪苗代町立東中学校長　津金光彦

WAF ふくしま in 猪苗代の滞在制作を受け入れるきっかけとなったのは、東中が令和四年に統合することでした。東中が閉校しても、作品が子どもたちの心の中に生き続け、そして地域の宝物として未来に受け継がれれば、という思いがありました。

制作期間約３週間余り。校地内にある土や自然の素材を生かした制作により、作品である「生命の木」は、日々命を与えられ、その表情が毎日変化し、驚くべき成長を果たしました。果たして「誕生日」当日、「生命の木」は、東中全体にその満ちあふれるエネルギーを放出し、見る者すべてに生きる喜びと癒しをもたらしました。

不思議なことに「生命の木」は、毎日成長し続けています。なぜなら、「生命の木」には、「新型コロナ禍だからこそ、多くのストレスを抱え、我慢を強いられている生徒たちをアートの持つ力で元気づけ、励ましたい」という実行委員の皆さんの思いと、「閉校後の行く末に思いを巡らす機会を創出し、みんなに愛される作品を残したい」というアーティストの市橋晴菜さんの思いが生き続けているからだと思います。

日々、笑顔で、かつ全身全霊で制作に当たられた市橋さんの祈りにも似た姿に、生徒・教職員一同、たくさんの「気づき」と「学び」を得ることができました。

未来に向かって成長し続ける「生命の木」は、時代や世代を越えて受け継がれるものであると確信しています。

最後になりましたが、WAF のますますのご発展と実行委員の皆様、プロジェクト代表のおおくにあきこさん、ディレクターの浜尾和徳さん、アーティストの市橋晴菜さんのご活躍をお祈り申し上げます。

素晴らしい「出会い」に感謝しています。ありがとうございました。

「ウォールアートフェスティバル ふくしま in 猪苗代 2020」に寄せて

福島県立猪苗代高等学校長
佐々木理夫

コロナ禍の中、「ウォールアートフェスティバルふくしま in 猪苗代 2020」を無事に成し遂げられた楠実行委員長はじめ実行委員の皆様、おめでとうございます。今年度もウォールアートフェスティバル（以下 WAF）に参加させていただいたことに心より感謝申し上げます。

本校は WAF に数年前から参加させていただいており、３階の観光実践室と廊下には、本校同窓生でもある写真家の野口勝宏さんの巨大な「花アート」、松岡亮さんの９ｍにも及ぶ「Play Pray Paint」が飾られております。本校は古い校舎でありますので、造りは実用を旨とし無機質・簡素なものでありますが、２作品の放つ気のおかげで展示スペースは刺激的かつ癒しの空間となっております。今年度は香川大介さんに来校いただき、美術室をまるごとアート空間としていただきました。本校では美術の授業がないため美術室は騒然とした状態でありましたが、香川さんや実行委員の方々による片付けと清掃を経て、生徒・教職員も作品制作のお手伝いをさせていただきアート作品「目をとじて この世界は 感じるままに」が誕生しました。四方の壁に四季がイメージされた繊細かつダイナミックな作品であります。完成した芸術作品を拝見することはあっても、制作過程を体験することは稀なことであり、日々室内が変わっていく様は「感動」の一言でありました。生徒にとっても、WAF は「リアルな芸術体験」として一生の思い出となることと思っております。コロナ禍により、オンラインや VR といった画面越し、疑似的な体験が多くなりましたが、「リアルな体験」がもたらす圧倒的な迫力・インパクトの大切さ・すばらしさを再確認する機会ともなりました。今後とも本校を WAF 活動の場としていただきたいと思っております。

未筆ながら、WAF に参加されたアーティストの皆様、実行委員の皆様の一層のご発展とご活躍を祈念致しております。

「目をとじて　この世界は　感じるままに」
香川大介　Daisuke Kagawa 2020

「目をとじて　この世界は　感じるままに」

私たちの社会はありとあらゆるものをつくり
続けてきました、つくる喜びをしっているか
らです。
いつしかこわれて、古び、忘れさられても、
私たちの心はまた、ありとあらゆるものにい
のちが宿っていることも知っています。

前に前にすすむ日々、ささやく声にあしをと
めて、ふりかえり、
しずかに
しずかに
いっそ目をとじてみる

ここで
花がさき　山はもえ
風がふき　湖はすべてをつつみこむ
のこるのは数えきれない思いでたち

絵は私たちの語りあった記おく
はじめからここにあったもの
感じるままに
大事なことを
思いだすように

「目をとじて　この世界は　感じるままに」
香川大介 Daisuke Kagawa 2020
アクリル絵具
福島県立猪苗代高等学校

猪高生の声

芸術はよくわからないが、
それでもきれいで圧倒されました。
３年

心から美しいと思いました。言葉で表すのが難しいですが、この一言の表現が一番近い気がしました。色の表現もそうですが、季節の移り変わりを繊細に描いているところが個人的に好きです。 香川さんや他のアーティストの方々と話をすることで自分の頭の中で完結してしまっていた芸術に対する考えが変わりました。また、今回の企画で表現する楽しさを感じることができたので、とても素敵な思い出になりました。美術室でのできごとは一生大切にしたいと思います。

３年

最初はよくわからなかった。
ほぼ最初の段階から見ていたので、
できたときに
「ウォォ！」となった！
２年

一つの絵をかくのに、
多くの工程を踏んでいるのに驚いた。
３年

情熱的な赤の使い方が鮮やかで素晴らしかった。数年間使われておらず、画材などであふれていた美術室の片付けは大変だったと思いますが、あれほど鮮やかな作品を仕上げていただいて感謝しています。

穏やかな「流れ」をその空間に感じた。
静・動・柔・剛・優・厳……が糾える縄のように感じた。

毎日廊下から描いている姿を見ていました。廊下から見える範囲でも感動していましたが、ウォールアート終了後に実際に美術室に入ってみると、とてもきれいで細やかな絵に言葉を失うくらい感動しました。また、実際に入って見ることで、廊下からは見られない面もじっくり見ることができてよかったです。

教員たちより

「生命の木」

地面にポトリと種が落ちた。
その種は鳥と旅をしてやってきた。
種は地中に潜り、根を出し、葉を出し、木になった。
太陽に照らされ月夜に歌い、木は上へ上へと葉を伸ばした。
ある日葉の裏から声がした。
「おーい、大きな木よ。葉っぱを一枚いただくよ」。
木は枝先の葉を小さな虫にあげた。
強い雨の日には、生き物たちは木の周りに身を寄せ合った。根には沢山の生き物達がひしめき合い、木から少しの養分をもらって生きていた。
そして、木もまた必要な養分を小さき者たちからもらっていた。
木はいつしか高くそびえ立ち、遠くの風景を見渡せるようになっていた。
しかし、根は深く、その場を動くことは難しいようだった。
木は、遠くに見える土地を見てみたくてたまらなくなった。
明け方、湖や森に想いを馳せていると、枝に渡り鳥がとまった。
渡り鳥は木にこう言った。
「そのおいしそうな実をわけてくれたら、私はあなたを遠くまで運ぼう」
木は嬉しくなってたくさんの実をつけた。渡り鳥はそれをついばんだ。
お腹を空かせた動物たちも喜び、それを食べた。
木は種となり動物たちによって遠くの地に運ばれた。木は身体中がたくさんの地に根づいてゆくのを感じた。

また種は芽吹く。どこか遠くの地の果てで。
ひと粒の種が一本の木になり、やがて生命の森となる。

豊かな森は私たちの中にある。

命はめぐり生き物達は寄り添う。

忘れてはならない。

生命の木が今ここに根づいていることを。

「生命の木」
市橋晴菜　Haruna Ichihashi 2020
アクリル絵具　土　顔料　キャンバス布
猪苗代町立東中学校

いろいろな命がいっぱいかいてありました。学校が閉校しても、この絵を一生誇りに思って、何年たっても残して欲しいです。２年

根にたくさんの生き物を描いて命を大切さを感じました。１年

根に子どもたちの絵があって、支えられていきているんだと自覚しました。１年

僕たちが合唱の練習をしている中で、いっしょうけんめい絵をかいていた市橋晴菜さんが印象的でした。
２年

自分たちをイメージして描かれたと聞いて、鮮やかでとてもゆかいな感じがしました。２年

５本の木の中にたくさんの生き物たちがいて、木と生き物の助け合いがすばらしいと思った。２年

これから学校は閉校してしまいますが、あの絵は一生引き継がれるものなので、20 年、30 年、40 年 とあの形のまま美しい原型を残していきたいと思います。
３年

東中生の声

一つの木をみんなで作り上げている。木はひとりでは生きられない。いろんな生物がつながっている。絵は目に効き、心に響きます。
３年

とても神秘的。柱に描かれている絵をたくさんの人に知ってもらいたいと思いました。３年

いろいろな微生物もいて、そこから木が生きているということが感じることができて、東中も同じだなぁと思いました。３年

昨年ウォールアートフェスティバルを見に行き、とても感動したことを思い出し、今年は自分の学校で開かれることを聞いてとてもうれしく思いました。３年

市橋さんの絵で明るい気持ちになれる人がたくさんいます。私はその中の一人です。３年

「植物は巡る」

猪苗代湖の周辺を歩きながら、いくつもの植物に出会った。
植物たちは秋を迎えて種を落とし始めていた。

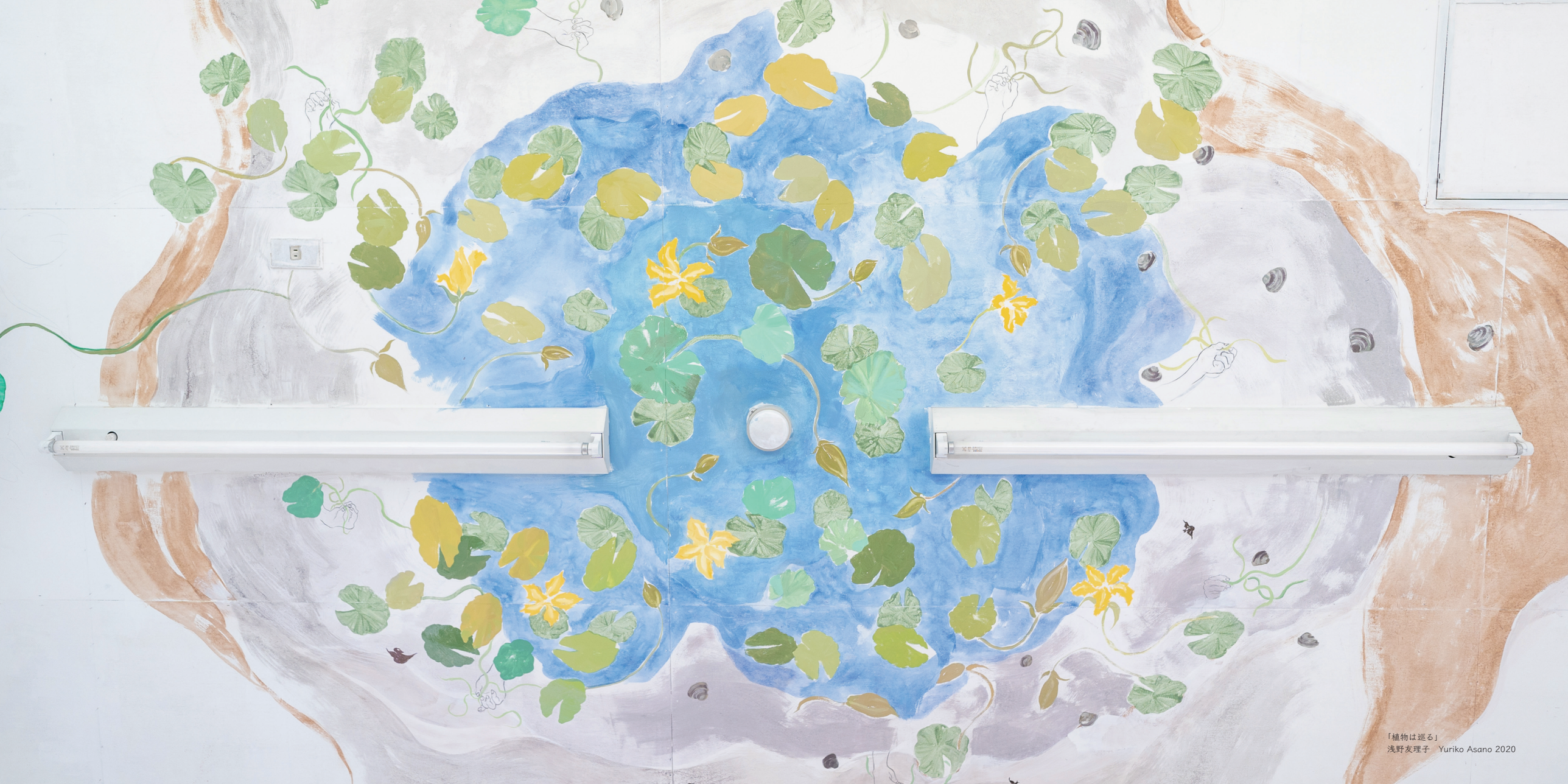
湖面に浮かぶ黄色いアサザの花は、湖をきれいにしてくれている。
アサザの手前には、増えすぎた菱の葉が張り巡らされていた。

菱の実は厳しい冬の湖で春を待って、夏には一面に咲き始める。
秋になると腐敗し、砂浜がヘドロのようになる。
菱を拾おうと湖に向かって歩き始めると、足元が底なし沼のように沈んでいった。

夏の終わり、翁島小学校の子どもたちに混ざり、菱の回収作業に参加した。
休憩時間にはみんなでスイカを御馳走になった。
回収した菱の堆肥から作られたスイカだそうだ。
菱を回収した場所にはアサザを植える。子どもたちは毎年、アサザの種の一部を採集してくる。その手で育てられた苗はふたたび湖へと帰っていって、また花を咲かせる。

私は今、学校の壁に、この土地で出会った植物を描いている。
子どもたち、先生方、訪れる人々とのやりとりが、筆を動かしていく。
植物たちは絵の中で巡りあい、ふたたび芽吹き始めている。

「植物は巡る」
浅野友理子　Yuriko Asano 2020
水干絵具　アクリル絵の具　灰



「植物は巡る」
浅野友理子　Yuriko Asano 2020

翁島小生の声

ゆりこさんはしょくぶつがだいすきですか。またしょくぶつをかいてください。1年

アケビやさつまいもなどぼくの知っている植物もたくさんかいてありました。マムシグサなど知らない植物もわかってよかったです。3年

私はスイカが一番好きです。すごくツヤツヤしているように見えて、切ってあるスイカもとてもおいしそうに見えました。4年

6年生の質問に丁寧に答えてくださり、『続けること』『人との出会いを大切にすること』など、将来自分の夢をかなえ、いきいきと生きていくために大切なことを教てくださり、感謝いたします。6年

ヒシはヘドロになってしまうのはざんねんですが、あさのさんのヒシはとてもきれいでした。 3年

ぼくは
「えのぐがかべに
くっつくんだ」と
思いました。
2年

きょうしつをきれいにしてくれてありがとうございました。すいかのえをみておなかがすいてきました。またかいてください。1年

「ごんぎつね」の絵をかくときに「けをかくといいです」といわれて、かいたら、すごくよくできました。
4年

すべての植物が好きになった気がしました。植物があるから、生きていけるな、と思いました。5年

かんさつしてこまかく書いていたから
「きれいだな」「やってみたいな」と思いました。2年

ぼくたちがアサザを植えているのをさいげんして、アサザを植えている様子をかいてくださったのがうれしかったです。6年

天井を見ると、
アサザを植えている手が見えて、
自分が水中にいるようで面白かったです。
5年

みてどきどきしました。
1年

スピンオフ展示「アート×対話」
@はじまりの美術館

３つの学校でのオンライン展示と並走する形で開催した「はじまりの美術館」でのスピンオフ展示「アート×対話」。学校での制作の様子やトークセッションをパブリックビューイングの形でモニター配信しつつ、招聘アーティストの作品も勢揃い。密を避けてワークショップも行われ、丸ごとアートを体験できる賑やかな展示となりました。

1 浅野友理子氏の展示会場には猪苗代湖で採取したヒシもやってきた。
2 香川大介氏によるもののけワークショップでは、小さな子もアートに夢中に。
3 会場巡りで完成させるツツミエミコ氏の版画ラリー。今年は展示の中でスタンプも体験。
4 猪苗代町とガーナを結ぶ野口勝宏氏と町内のみんなで作った「花アート〜ホストタウン猪苗代〜」も。
5 「わふT」が人気。
6 野口勝宏氏の花シールでしおりを作るワークショップも楽しく。

淺井裕介による
「湖の年輪」ワークショップ

2019 年に猪苗代中学校に描いた淺井裕介氏もワークショップのために駆けつけてくれました。猪苗代湖の 1/5000 の白地図がベース。参加者全員で、猪苗代で採取したいろいろな色の土で点々や線を描いて「湖の年輪」を完成させました。

トークセッションもオンラインで配信しました。
アーカイブはこちら。

実行委員の感想

「超充実して楽しかった」これしかありません。最近は特に目標もなくボケェっとして、ただその日を淡々と過ごすだけだった日常が、アーティストさんとの関わり、実行委員との連携…など、とっても忙しかったけど、日常に彩りが出ていることを知りました。とても楽しく周りの人を頼る安心感、プロのアーティストと関わる緊張感。様々なことを学べました！**内田洸太**

改めて猪苗代が好きだと実感しました。猪苗代を良くしたい、ひろめたいという思いをみんなが持っているので自分自身も楽しみながら参加できました。**村尾碧**

久しぶりに文化祭の様な一体感を感じられてワクワクしました。**野崎真由**

普通、『絵』というと一枚の紙に描かれたものを連想しますが教室や壁に描かれた絵は圧倒的な力を持っていて眼も心も持っていかれます。残念ながら今年はオンライン展示でしたが、それらを生で観ることが出来たならいろんな価値観がひっくり返るだろうなぁと想像しました。 またこの年に一度のフェスティバルは、作品を楽しむ機会でもあるのですが実行委員が一致団結して何かを作り上げ、それらが花咲く瞬間にもカタルシスがあるのではないかと思いました。**佐川裕一**

今まで芸術にあまり興味を持てなかったですが、新しい創造性を高めていく上で芸術に興味を持つことも必要なのではないかと思いました。**長友海夢**

やればできる。初めてづくしだったのですが、子供の頃は美術に全く興味がなかった自分が、楽しい！とホントに思えた。**二瓶尚之**

WAF を通じて、いろいろな思いがある中、「誰かに何かを伝えたい」や「誰かを笑顔にしたい」、自分を表現することの他者への価値観共有が原点にあるような気がした。
また、作品や制作から不思議なエネルギーを貰った。私も何か成し遂げたい。残したい。今回テーマだった「対話」から、今後もつながりを増やしていきたいと思える WAF でした。**根津秀章**

今回は、ワークショップ、オンラインの配信などがメインだったので、2 日間ともまとまりがありとても良かったと感じた。撮影チームや、アーティストさんは大変だったかと思いますが、スタッフとしては動きやすかった。**六角 新**

子どもたちのはしゃいでいるところを見るだけで私もすごく楽しい気持ちになりました。**黒金泰寛**

私はあまり地元が好きでは無かったのです。が、特に中学校。見事に上書きされた上に、私のダークサイドはカラフルになりました！　そして地元にもっと何かできないかなと考えるようになりました。アートのパワーはすごいなと感心しきりです。お手伝いから参加させて頂いたことで、愛着も湧きます。アーティストさんひとりひとりの息遣いが、完成したあとも感じられるような気がして誰かに自慢したい、みせたい、という欲求にかられました。**関澤和果**

今回オンラインでの開催がメインであったため、実行委員が作品制作に携われたり、作品を鑑賞できたり、ワークショップに参加することができ、実行委員の満足度が高いものになったのではないかと思います。
宮澤重嗣

様々な判断が必要で、今まで以上に慎重かつ丁寧にすすめなくてはいけない WAF だったと思います。実行委員のみなさんそれぞれの能力やネットワークを活かしながら、いまできる最大限の WAF だったと思います。
また今年は、3 人のアーティストのバランスが非常によかったなと思いました。表現の手法がそれぞれ異なっていたり、生徒や地域の人、実行委員会など他者の力を作品に取り入れる方法が異なっていたりするのが印象的でした。香川さんは香川さんのイメージする像を制作するために他者に筆を入れるのを手伝ってもらい、市橋さんは参加者に想像する生き物や形を描いてもらいそれを作品の一部にし、そして浅野さんは子どもたちの話や活動を作品の中に柔軟に取り入れていました。他者の、個の体験が残ること、そして、アートと呼ばれるものがうまれる過程の重要さが詰まって、共有しあえる WAF だったと思います。**大政 愛**

多くの方に「体感」してもらうことが難しく、もったいなかったと思う。各中学校が完成したことで、他の中学校の作品にも興味が出ていると思うので、その流れを次回に取り入れてほしい。**齋藤行仁**

ここ 3 年間で一番アーティストと作品と接することができ、制作に携わり、やりきれて本当に嬉しかった。自分の母校が廃校になることを日々感じていく機会にもなり、寂しさを感じながらも「なにができるのか」「なにを残すことが大切なのか」を考え始めていた。
校舎は残るが、そこにあった学びの風景は？青春は？熱い想いは？
校舎は残っても消えていくものの多さといったら計り知れないなと感じていた。
猪苗代では、こども園統合前のメリットも確実に存在していた。各幼稚園で培ってきた文化、地域とのつながり、少人数だからこそできたこと。一度消えたものを取り戻すことは本当に難しいことなのだと考えさせられる。
中学校の統合が進んでいる中で、議論はどこまでされているのだろうか。「各学校がもっていた強みはこれで、統合のときにどうしたら引き継げるのか？」「学校がここにあったから、地域のバックアップがあったけど、統合後、その力を受けられるのか？」。一度深呼吸して、その流れを見定めてみるのも必要なのではないだろうか。
活動期間中、学校の文化祭がおこなわれ、合唱の声が校舎に響き渡っていた。どの世代でも実施されていた文化祭の合唱コンクール。その歌声は校舎の脈のようにも感じた。世代が違っても、そこに残る文化や学校としての強みは変わらないのだと主張しているようだった。私たちはそれを実感できたからこそ、この町に本当に残していけるものを見定められるのではないか。統廃合まであと少し。彼らの声を次世代につなげていきたい。**土屋勇輝**

WAF 当日は、去年よりも心身に余裕があり、実行委員のみんなと話せる時間もあって「WAF って楽しい〜」と素直に感じることができました。WAF 実行委員が、去年よりもっとチームになれていることを感じることができて、私もチームの一員にいさせてもらえていることを感じて、嬉しかったです。来年はオフラインで開催できますように。バジャールもやりたいですね。
関根詩織

「子どもたちのために」その誠実な思いはその学校に通う生徒、先生、保護者に確実に伝わっているのですね。私が通っていた母校に心の財産がもたらされ、ここに通う子供たちは本当に幸せだなと、と思いました。
あの空間にいるとなんであんな幸せな気持ちになれるのだろう。それはこの WAF を通して自分が実際に少しでも携わり、アーティストの人柄を知り、仲間と一緒に作り上げた達成感があるからでしょうか。 来年も楽しみです。**一ノ瀬千香**

今年は、コロナ禍で、沢山のイベントが開催されない中、WAF を開催できた事が、かけがえのない経験、体験となりました。また、今回は、猪苗代町の地元のメンバーを中心に活動する事で、一人一人が活躍する場が増えました。はじめてアーティストさんの補助をして、アートの素晴らしさに触れられたと感じるメンバーがいてくれた事が、自分の事のように嬉しく思いました。**西村和貴**

「みなとや」の屋上でアーティストのみなさんが制作に励んでいる姿、作品ができあがる過程を見ることができてワクワクしていました！ 来年の実施を目指して、今年公開できなかった作品を多くの方々に見せてあげられたらと思います。**渡部一登**

ウォールアートプロジェクトとして 15 回目の芸術祭。オンライン公開、動画配信、SNS を駆使した発信など、デジタルを用いた進化の可能性を感じた一方、アーティストたちと児童・生徒、先生たちの距離が非常に近く、血の通った「対話」がたくさん生まれました。アートを介して「誰か」と「誰か」、「誰か」と「何か」が化学反応を起こし、結びつく時のスパークをたくさん見つけました。出来上がった壁画は、その光で輝いています。**浜尾和徳**

インド、農村部にある学校の壁で 2010 年に始まった WAF。教育支援と地域の人たちが元気になることが目的のアートプロジェクトですが、なかなか日本で実現できずにいました。個人個人が意義を感じても、公教育の場でアクションを起こすことに壁がありました。猪苗代で実現しているのは、そこで暮らす人々の心が自由であり、自分を信じて生きているから。子どもたちに対してできることは何か、常に問いつつ、責任を持っているから。それを感じ取ったアーティストも心から共感して持てる力のすべてを注ぎます。彼らが猪苗代に残していく大きな作品を通じて、猪苗代から日本へ、世界へ、渦が広がっていくと信じています。
おおくにあきこ

主催
ウォールアートフェスティバルふくしま in 猪苗代実行委員会

共催
猪苗代町教育委員会
一般社団法人猪苗代青年会議所
社会福祉法人安積愛育園はじまりの美術館
NPO 法人ウォールアートプロジェクト

助成
令和 2 年度福島県地域創生総合支援事業（サポート事業）補助金

後援
猪苗代町
一般社団法人猪苗代観光協会
福島民報社
福島民友新聞社

協力
猪苗代町立翁島小学校
猪苗代町立東中学校
猪苗代町立猪苗代中学校
猪苗代町立吾妻中学校
福島県立猪苗代高等学校
猪苗代町立長瀬小学校
猪苗代町立緑小学校
鬼多見　賢

協賛
貝印株式会社
薮内利明
猪苗代町立東中学校平成 15 年卒業生有志
ポーラスター株式会社
NPO 法人猪苗代研究所
有限会社ホーライハウジング
のうのば
社会福祉法人安積愛育園
有限会社ブルーベア
道交会
有限会社吾妻食品
有限会社六和林業
長照寺
株式会社まるよし建材センター
株式会社 UR 補償技術研究所未夏 with
土津神社
LAKE SIDE HOTEL みなとや
Music Studio Upbeat
みらいなこどもプロジェクト
渡八商店

有限会社中村金物店
MakeHERO 株式会社
おきなしま大人こども歯科クリニック
医療法人社団敬天会 小川医院
渡部産業株式会社
有限会社ドライブイン磐尚
有限会社別府測量設計事務所
株式会社アウレ
小西食堂
株式会社アセラ
澁谷建設株式会社
ミーナ企画
五十嵐ファミリー
有限会社田村屋旅館
大竹歯科医院
花見屋旅館
磐梯西村屋
斎藤歯科医院
万葉亭
佐藤印刷所
株式会社ホテルマウント磐梯
有限会社国分木材店
三部会計事務所
朝日荘

ウォールアートフェスティバル
ふくしま in 猪苗代 2020

【構成】
ウォールアートフェスティバルふくしま in 猪苗代
実行委員会

【編集】
Blue Bear Inc.

【写真】
あきんどクリエイション合同会社
市橋晴菜
大政　愛・小林竜也
浜尾和徳・おおくにあきこ

【デザイン】
小栗千隼

【発行日】
2021 年 3 月 10 日

【発行所】
有限会社ブルーベア http://blue-bear.co.jp
〒 157-0065 東京都世田谷区上祖師谷 7-6-1-201
TEL 03-5314-7636

【印刷・製本】
シナノ印刷株式会社

ウォールアート
フェスティバル
ふくしまin猪苗代

©2021 ウォールアートフェスティバルふくしま in 猪苗代実行委員会
http://wafes.net/inawashiro
Printed in Japan
本書掲載の記事・写真などの無断掲載・複製・転載、ならびに
情報システムへの入力を禁じます。